

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

基本的な目標についての追加・修正は行っていないが、各目標の下位目標的な位置づけとなる具体的な手段を随時設置し、その運営を行ってきた。以下、(2)の「改善の具体的方策」との関連で説明していく。

【6.1.1 教育課程】

目標1におけるカリキュラムの不断の改善に対する制度的な試みとして、2004年度にカリキュラム委員会の下に「教育活性化委員会」を設置し、若手教員を中心にして、カリキュラムの見直しを含めた商学教育の仕組みと運営についての議論を重ねてきた。2006年度からは、カリキュラム委員会とは独立させ自律性をもった委員会へと昇格させ、商学部全体として、複合的な視点から商学教育について検討できる体制を整えた。現在、重点的に議論を重ねているのは、導入教育と少人数教育のあり方についてである。これら両委員会にFD委員会を併せた3つの委員会が、商学教育についての議論の場となっている。

【6.1.2 履修科目の区分】

目標2における基礎科目の充実化を図るために、2006年度から専門基礎科目における「簿記基礎」を、選択必修科目から必修科目に変更した。さらに、教養基礎科目における「教養基礎D(異文化)」について、担当している第二外国語教員間で授業内容の調整をはかるために、2006年度より、年に数回の懇談会を教務担当主導で開催してきた。目標3における導入教育の実施とその強化のために、2006年度より新入生を対象にクラス担任制を導入した。クラス担任制は、1年生を対象とした「商学演習」をクラスとして位置づけ、専任教員が担任となり、総合的な導入教育の責任者として位置づけた。2006年度より、オリエンテーション時に、導入教育の基礎となる「キリスト教教育に基づく商学部の教育理念」と、コンピュータリテラシーの基礎となる「情報管理教育」についての説明を導入した。さらに2006年度より、オフィスアワーの徹底化をはかり、専任教員全員に経過報告書を提出させ、特に新入生の入学後の追跡をした。さらに教務担当による「商学部アワー」(週1回)と、学部長による「学部長アワー」(半期1回程度)を実施し、クラスの枠を超えたバックアップ体制を整えた。

【6.1.3 授業形態と単位の関係】

現在、大学の教務委員会の下部組織である教育課程委員会の検討結果を待っている状態であり、大学全体の動きに合わせて見直しを行う予定である。

【6.1.4 単位互換/単位認定】

目標4における言語教育の拡充のために、2006年度より第二外国語科目の一つとして「スペイン語」を設置した。また、英語教育における実践的なビジネスコミュニケーション能力を把握する目的と、学生への学習モチベーションを向上させるために、2007年度より、1年生をメインターゲットとした「TOEIC-IP」を導入する予定である。実施は2007年11月を予定している。

【6.1.5 開設授業科目における専・兼比率等】

目標5における実践的教育の拡充に向けて、各コースが設定する特論科目の充実化をはかり、全コースで実践的な内容を提供する特論科目を揃えてきた。また、コース横断的なコース共通特論の充実化も図り、2006年度からはプレゼンテーションやヒアリングのスキルを醸成する科目の開講も行ってきた。これらに向けて、充足していなかった専任教員の枠を埋めるべく、教務担当と人事委員会との協力体制を整え、任期制実務家教員の採用を積極的に行い、2006年度には2名、2007年度には1名の任期制教員の採用により、実務的な内容を充実させた科目の提供を行ってきた。

【6.1.6 カリキュラムと国家試験】

目標6における単位認定による資格・検定等の取得推進としては、2006年度には「スペイン語技能検定試験」、2007年度には「Diploma de Espanol (Nivel Inicial)」「Diploma de Espanol (Nivel Intermedio)」「情報処理技術者試験初級システムアドミニストレータ」を単位認定対象として追加した。

【6.1.7 インターンシップ、ボランティア】

インターンシップについては、大学のキャリアセンターが学生の窓口となっているため、全面的な協力体制を維持している。商学部独自のインターンシップとしては、アドバイザー・パネルの一部のメンバーに協力を打診中である。

【6.1.8 生涯学習への対応】

以前と同様に、大学への全面的な協力体制を維持している。

【6.1.9 正課外教育(エクステンション等)】

以前と同様に、大学への全面的な協力体制を維持している。

認証評価の結果について、商学部のカリキュラム編成ならびにその取り組みを、十分に評価して下さっていると解釈したい。基礎教育から専門教育への移行におけるケアについてのご指摘については、2年次の秋学期が始まる直前の2日間に渡って、コースならびに研究演習の履修に関する説明会を実施している。また、2006年度より始めた商学部アワーにおいて、専門教育を履修するにあたっての質問なども学生から寄せられるようになり、これらに対して適切な指導を行っている。オフィスアワーの充実化が進められることにより、さらにきめ細やかなケア・相談体制が整っていくことが期待される。

学内第三者評価

カリキュラムについては、カリキュラム委員会、教育活性化委員会、FD委員会が連携して取り組んでおり、「簿記基礎」の必修化や複数教員が同一科目を担当する場合の調整のための懇談会の開催、新入生対象のクラス担任制の導入、「キリスト教教育に基づく商学部の教育理念」、コンピュータリテラシーの基礎となる「情報管理教育」などの導入教育も強化し、さらにオフィスアワーの徹底化を進めるなど教育力の強化が着実に進んでいる点は、総合的に見て優れた取り組みである。語学教育でもスペイン語の新設、1年生対象のTOEIC-IPの2007年の実施などが進んでいる。

2005年度には経営戦略研究科に教員の一部が移った影響で、専任教員数が学内で定めている定員数を割り込んだ状態になっていたが、その後の2年間で任期制教員を3人採用するなどして教員組織を整備しなおした。

「スペイン語技能検定試験」や「情報処理技術者試験初級システムアドミニストレータ」を単位認定対象として追加するなどきめ細かな施策が順調に遂行されている。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

・認証評価の指摘を受け、オフィスアワー制度の整備が進んでいること、また新入生に対しクラス担任制を導入するなどの改善が進んでいることは評価できる。また、公認会計士試験や税理士試験合格者に関するデータは、非常に重要な教育成果のevidenceであるので、受験者数等も含め今後詳細を把握されるように期待したい。